リコーダーコンテスト　録音データ送付について

第 50 回リコーダーコンテストでは、録音でのエントリーを認めます。
また状況に応じて、申込後の生演奏から録音へのエントリー変更も認めます。
会場での生演奏審査が難しい状況になった場合は、全ての団体を録音審査に切り替える可能性もあります。そのため、生演奏でエントリーした団体も、念のため提出用の録音データを作成しておくことをおすすめします。

［注意事項］

①必ず、申込書に記載したメンバー・編成で演奏すること。

②演奏時間は 6 分以内におさめること。最初の音が鳴り始めてから、最後の音が終わるまでが演奏時間です。複数の曲を演奏する場合、曲間も含めて 6 分以内にしてください。
※演奏開始前・演奏終了後の時間は含めません。録音ボタンを押してから 3 ～ 5 秒の間を取って演奏開始し、演奏後もしばらく動かず余韻を残して録音終了するのが望ましいです。

③データ形式は mp3 にすること。違う形式の場合は変換ソフト等を使って変換してください（拡張子だけ書きかえるのはおやめください）。わからない場合はご相談ください。

④複数の曲や楽章を演奏する場合も、1 ファイルにまとめること。別々に録音してつないでもかまいません。

⑤ファイル名は「部門_演奏形態_団体名_曲名.mp3」とすること。
（例）小学_独奏_〇〇小学校_うぐいす.mp3

⑥演奏の細部が聴き取れるような録音をすること。特定のパートが聴き取れない録音、音が小さすぎる音源、音が大きすぎて割れている音源、残響が大きすぎる場所で遠い位置から録音した音源や、加工によって響きを増した音源などは、審査に支障をきたす場合があります。
※録音した音源は必ずイヤホン等で聴いて、上記の条件を守れているか、自分たちの望む形の録音ができているかを確認して送ってください。
※多少の雑音は問題ありません。ただし、大きな水抜き音やせきばらいなどは、特に録音審査においては耳障りに響くことがあります。曲間も演奏の一部として、ステージで演奏するときと同様に気を遣ってください。
※音割れには十分ご注意ください。録音を聴き直して音割れしていた場合は、録音機器の入力音量レベルを下げて録り直してください。音割れした録音をあとから修正することはできません。

せっかくいい演奏をしても、録音状態によって評価に差が出てしまうこともありえます。練習時からマイク位置等を試行錯誤し、ベストな録音音源を送ってください。

参考：東京リコーダー教育研究会が開催した録音講習会の動画（限定公開）
https://m.youtube.com/playlist?list=PLPrkNgaucVgYHaUPPMlJgIYqOlAiAOIvn

送付方法：メール添付（約 200MB まで可）、またはギガファイル便等のファイル転送サービス
宛先：東京リコーダー教育研究会コンテスト事務局　mail@tokyorecorderseminar.com
締切：**12 月 20 日（月）24:00**
※録音データ受領メールをお送りします。メールが来ない場合はご連絡ください。
※全団体録音審査に切り替える場合は、改めて締切をご連絡いたします。

録音データ送付について、ご不明な点やお困りのことがございましたら、メールにてお問い合わせください。

東京リコーダー教育研究会　コンテスト事務局
mail@tokyorecorderseminar.com